

新たに入会された皆さん
賛助会員

山口尚美
保坂祐子
西部三重子

寄付をいただいた皆さん

中山修
山沢桃子
鶴丸悌二
掛水すみえ
NPO法人
ハートライフ福祉協会
小林浩昭
小谷正美
小林和子
菅原美代子
三戸俊徳
特活(宝塚の杜芸術倶楽部)
濱本佳子
森本樹
匿名希望1名

新たに入会された皆さん
正会員

一般社団法人
まち遊び委員会
社会福祉法人
晋栄福祉会宝塚支部
横山宗助
山田忠生

(順不同、敬称略 期間：2015年3月1日～5月31日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 43,177円

2015年4月1日～5月31日

2014年度 寄付総額
計 192,489円

ご支援ありがとうございました。

(認定) 宝塚 NPO センター 会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

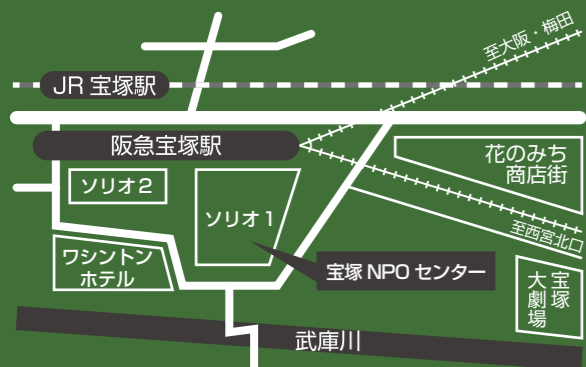
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクテイヒエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センターニュース
TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

83 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2015.6

地域で忘れられない社会をつくる人が一人もいない

宝塚 NPO センターは
メールマガジンを月 2 回配信しています

zukanpo@hnpo.net
上記アドレスに「配信希望」とご連絡ください

みなさまの寄付で支えられています

http://hnpo.net/support/
認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

(認定) 宝塚 NPO センター 理事長 牧里 每治

平成27年度通常総会報告

日時：平成27年5月10日（日）13:30～15:00

会場：宝塚市立勤労市民センター

参加人数：正会員78名（うち委任状46名）

提案された議案・報告はすべて承認可決されました。



平成26年度特定非営利活動に係る事業会計

活動計算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日まで

(単位：円)		
科 目	当初予算	決算額
I 経常収益		
1. 受取会費	1,500,000	1,213,000
2. 受取寄付金	1,030,000	1,114,922
3. 受取助成金等	8,900,000	8,900,000
4. 事業収益	18,944,000	21,642,729
5. 受託収益	47,240,920	54,960,236
6. その他収益	752,000	1,402,186
経常収益計	78,366,920	89,233,073
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	43,412,529	47,022,261
(2) その他経費	22,528,847	26,910,620
事業費計	65,941,376	73,932,881
2. 管理費		
(1) 人件費	526,000	440,435
(2) その他経費	11,227,370	12,191,226
管理費計	11,753,370	12,631,661
経常費用計	77,694,746	86,564,542
税引前当期正味財産増減額	672,174	2,668,531
未払法人税等	82,000	82,000
当期正味財産増減額	590,174	2,586,531
前期繰越正味財産額	17,798,881	17,798,881
当期正味財産合計	18,389,055	20,385,412

活動予算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日まで

(単位：円)		
科 目	当初予算	
I 経常収益		
1. 受取会費	1,500,000	
2. 受取寄付金	1,000,000	
3. 受取助成金等	7,900,000	
4. 事業収益	21,808,000	
5. 受託収益	68,593,416	
6. その他収益	1,002,000	
経常収益計	101,803,416	
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	58,681,895	
(2) その他経費	33,118,084	
事業費計	91,799,979	
2. 管理費		
(1) 人件費	1,155,349	
(2) その他経費	8,260,000	
管理費計	9,415,349	
経常費用計	101,215,328	
税引前当期正味財産増減額	588,088	
未払法人税等	82,000	
当期正味財産増減額	506,088	
前期繰越正味財産額	20,385,412	
当期正味財産合計	20,891,500	

コラム

「居場所と出番」

かねてから高齢者や若者の居場所が無いとか、社会への出番がないとか騒がれたことがあるが、行くところが無かったり、用が無かったりする人たちが存在している事態はいつにも変わっていないし、むしろ行き場所を失ったり、引きこもっている人たちは増えているのではないかと。市場経済主義や個人契約主義のいきすぎで、現代社会の息苦しさ、閉塞感を感じている人たちは多いのではないかと。次世代を担う子どもたちには「ゆとり教育」とか「生きる力を育む」とか唱えられたりしたけれども、若い世代は勝ち組、負け組に峻別される格差社会に投げ込まれ続けている事態は変わっていない。他方、リタイアした団塊世代に社会参加の促進が国を挙げて唱えられたけれども、孤立・孤独な人生の最後を迎えさせられている一人暮らし高齢者は急速に増えているのが実態だ。地方自治体も世代交流を促進させる目論みがあるのだろうか、市民の交流する「集いの家」づくりが奨励されたり、市民が個人的に市民のつながりを求める場としての「家開き」に取り組む例も増えてきている。いずれも無縁社会を返上しようという、ささやかな取り組みだ。安全で安心で豊かな日本社会をめざして多くの先人たちが奮闘してきたのだけれども、いつの間にか人々の繋がりが希薄になり、お互いの信頼が薄い社会にしまった危機意識が底流にあるように思えてならない。

互助や繋がりの少なくなった都市社会を再生しようと、「サード・プレイス」に着目する潮流が顕著になってきているという。人間にとって生活上欠かすことのできない場所として、家がファースト・プレイス、学校や職場がセカンド・プレイスなのだそう。この第一の居場所と第二の居場所は、国や自治体も社会の近代化に応じてインフラ整備を進めてきたが、第三の場所であるサード・プレイスの整備促進は怠ってきたのではないかとこのわけである。サード・プレイスとはどういう居場所なのかというところ、フランスやイタリアの「カフェ」、イギリスの「パブ」なのだそうだが、「憩いと交流の場」をいうらしい。確かに劇場やコンサートホール、他には公園や緑地、スポーツセンターなどの公共施設の整備を除けば、市民が気軽に日常的に集い交わる居場所は激減している。振り返ってみると、庶民の憩いと交流の場として、日本には井戸端や銭湯があったし、寝泊まりできる集会所もあった。昭和の時代までは喫茶店という憩いの場もなかったわけではない。喫茶店はカフェという洒落な場になったし、オジサンたちには居酒屋が憩いの場なのかもしれない。しかしながら、カフェや居酒屋にいても、どこか物足りなさや侘びしさが漂うのはなぜだろう。よく観察してみると知り合いや仲間としかカフェや居酒屋には行かない。不思議なことに見知らぬ人とは交わりもしなければ、会話しもしない。

どうやら少子高齢社会のインターネット情報社会では、新しいスタイルの居場所が必要になってきているのかもしれない。インターネット・カフェは論外にしても、若者と高齢者が出会う場、交わる機会が無くなってきているし、障がいのある人と無い人との交流も多くはないし、家族以外は異性と会話ができない人も増えているという。家族・家庭という生活世界でもなく、企業・事業所というフォーマルな場でもない居場所づくりとそれぞれの社会参加の出番づくりが求められている。

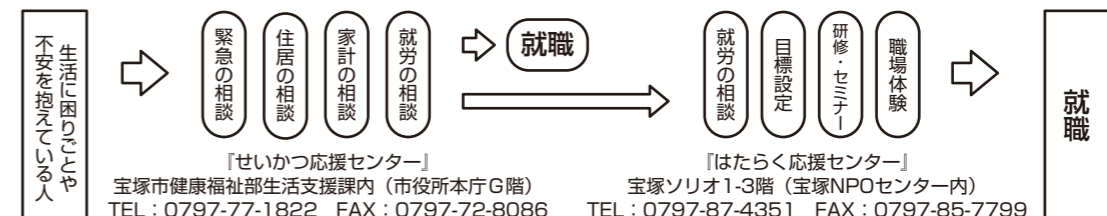
理事長 牧里 毎治

就労準備支援事業の相談窓口

「はたらく応援センター」を宝塚NPOセンター内に設置しました

さまざまなお困りごとがある人に包括的な支援を行う「生活困窮者自立支援制度」が平成27年4月から始まりました。宝塚NPOセンターでは、「はたらく応援センター」を設置し、働きたい人を就労に結びつける役割を担っています。

すぐに就職できる人に加え、「社会に出ることに不安がある」「他人とうまくコミュニケーションできない」といった理由ですぐに職に就くことが難しい人に、6ヵ月から1年を上限に、一般就労に向けたサポートや就労機会の提供を行います。まずは「せいかつ応援センター」にお問い合わせください。



平成27年度は「誰でもが輝ける場が、地域力を育むサードプレイス」を目指します

協働の場づくり

- ・市民活動促進支援事業
- ・ひよごアドプト推進事業
- ・総合計画策定業務

市民同士の協働、行政と市民の協働、中間支援と市民・行政の協働という3つのつながりの中から、地域のあちこちに対話を生み、お互いの理解を深めながら共に地域を考える参加型の社会をつくりまします。

人と組織づくり

- ・生きがいしごとサポートセンター事業
- ・生きがいしごとサポートセンター全県活性化事業

持続可能な組織運営を相談者と一緒に考える姿勢を大切に、コミュニティビジネスやNPO活動を通じて、誰もが主役として参加できる社会をつくりまします。また、仕事というツールを用い、誰もが社会とつながることを応援します。

地域づくり

- ・宝塚市立勤労市民センター指定管理事業

参加型の施設管理運営を通じて、新しいコミュニティをかたちづかっていきます。本を通じた市民同士の交流の場も設置します。

若者就労支援

- ・宝塚市地域人づくり事業
- ・宝塚市職場体験付若者就労支援事業
- ・伊丹市若年者就労サポート事業
- ・地域若者サポートステーション事業
- ・生活困窮者支援事業
- ・若年者合同就職面接会

働くことで社会に参加することを支援し、就職成立者を増やします。また、事業者はもとより多くの市民に現在の雇用状況を伝えることで、地域の理解を深めます。

参加の場づくり

- ・カフェを通じた参加の場づくり

年齢や立場に捉われず誰もが参加できる場づくりや仕組みづくりを、100色珈琲カフェを通じて実現します。

市民ネットワークづくり

- ・情報提供、講演
- ・東日本大震災支援
- ・ネットワーク事業

中間支援NPOとして、それぞれのセクターを結びつけるネットワークの推進に力を入れ、安全で安心な社会をつくりまします。